

第42回 横浜みどりアップ計画市民推進会議 会議録	
日 時	令和元年9月9日（金）午後3時～5時まで
開 催 場 所	関内中央ビル3階3A会議室
出 席 者	奥井委員、国吉委員、高田委員、高橋委員、村松委員、望月委員（五十音順）
欠 席 者	なし
開 催 形 態	公開（傍聴0人）
議 題	1 市民推進会議広報誌第36号原稿案について 2 市民推進会議広報誌第37号企画案について 3 見える化企画案について 4 その他
議 事	<p>事務局： 本日の会議は定数6名のところお二人は遅れて来られるということですので、現時点でも4名には参加いただいておりますので、この会議が成立することを報告いたします。            本会議は、同要綱第8条によりまして公開となっております。会議室内に傍聴席と記者席を設けています。            では、議題1の「市民推進会議広報誌第36号原稿案について」でございます。それでは、事務局から説明をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">（事務局説明）</p> <p>高田部会長：今、表題のところを説明いただいたのですが、なかなかいい案をたくさん出していただいて、まずはこちらについて皆さまにご意見いただきながら決めていくというところから始めさせていただければと思います。何かご意見、皆さん、いかがですか。</p> <p>事務局： 印刷をしたものをこちらに貼りだしましたのでご覧ください。基本的には、読んだ方に実際行きたい、参加したいと思ってもらえるような広報誌のイメージだと思いますので、ちょっとそれを意識しながら選んでいただくのがいいのかなと思います。大体、そのイメージで全部、作ってはいるんですけども。これはないなっていうのから外していくという方法でも結構です。</p> <p>望月委員： 消去法ですね。</p> <p>高田部会長：まず分かりやすいのは、「みどりアップ」っていうのが1、2、3までですかね。</p> <p>事務局： 7、8もですかね。</p> <p>奥井委員： 私は直球で、みどりアップ計画やみどり税を知ってもらうために、その言葉が一番最初に目に入ったほうがいいかなと思っています。</p> <p>高田部会長：そもそもみどりアップで、1番だとまさにこのまんまということですよ。2番は「ABC」。「ABC」というのはどういう意味かっていうところですよ。</p>

事務局：　そうですね。前回の部会のお話の中だと、昨年までが「みどりアップQ」だったので、それを意識して応えていく「ABC」といったご提案だったかなと思います。

高田部会長：これを説明していくってということで「ABC」ですかね。Questionに対して答えを出していくみたい。3番の「みどりアップLIFE」は、みどりアップで私たちとのつながりみたいところで生活に入ってくる。

国吉委員：　ローマ字がたくさん入っているものがありますが、入ると分からない方もちょっといるのかなという懸念もあると思います。

奥井委員：　そうですね。

国吉委員：　ちょっともじり過ぎてしまうと、内容が分かりづらくなってしまふということもあると思います。

高田部会長：ここで言うと、「ジョインアップ」とか、「グリーンアクト」とか。

国吉委員：　「MU」もちょっと分かんないかも。

高田部会長：そこら辺とあと、「MIDOLINK」ですか。「Green for You」もそうですね。反対に言えば、「みどりアップPLUS」は分かりやすいですね。

村松委員：　11番の「みどりアップPLUS」は「PLUS」をカタカナにするとか？

事務局：　それももちろんいいと思います。

高田部会長：では、そうすると、「みどりアップ」か、「緑ふれあい」、「みどりアップPLUS」？

村松委員：　ここの右肩に入っている「みどりアップ計画市民推進会議広報誌」っていう小さいのは入るのですか？

事務局：　それは、そのとおりに書くかはまだ分かりませんが、市民推進会議で発行しているのだというのはどこかにちょっと小さく記載したいとは思っていますね。

高田部会長：じゃあ、どうでしょうかね。「ABC」か、「LIFE」か、そのまんまか？

事務局：　皆さんに参加してもらいたい。実際に知るだけじゃなくて、せっかくなので農体験だとか、市民の森に遊びに行ったり、そういう市民の生活にみどりアップ計画が入っていくところをイメージして「ライフ」をつけた事務局案です。

高田部会長：私たちと関わっているみどりアップっていうことですかね。

事務局：　そうですね。

高田部会長：みどりアップの説明だけだったら、普通のそれこそ、どこかホ

ームページを見たりでもあるけれども、それではなくて、私たちが広報、皆さんに分かりやすく、市民目線で見たいものを作るという意味で、「ライフ」という、私たちのものだというイメージですよね。

村松委員： 二つぐらいずつ皆さん出して投票したらどうでしょうか。

奥井委員： そのほうがいいかもしれません。

(投票)

高田部会長： では「みどりアップACTION」で決定ですかね。望月先生はいかがでしょう。

望月委員： これは、市民推進会議の広報誌なので、皆さん、公募委員の方が決めるというのがとてもいいと思うんだけど、私は決定には参加しないほうがいいと思っています。

事務局： では、参考までに。どれがいいでしょう。

望月委員： この「ACTION」っていうのが実を言うといいかなと思うんです。ライフやプラスに比べてもすごく積極的で、強い言葉になる。

高田部会長： そうですよ。

望月委員： 前が「Q」でしたから。計画が第3期目になりますから、今度はやりましょうっていう意味で、「ACTION」というのはすごくいいなと思います。

高田部会長： はい、「YOKOHAMAみどりアップACTION」でお願いいたします。では、次は、「36号原稿案について」です。事務局説明をお願いいたします。

(事務局説明)

高田部会長： ありがとうございます。

それでは、皆さまからご意見、ご質問等ございましたらお願いしたいと思いますけれども。原稿を書いていた奥井さんと高橋さんにちょっと取材のときの様子やコメントがございましたら、一言お願いします。高橋さんいかがでしょう。

高橋委員： 私は、インタビューのときと、翌日の撮影で実際に愛護会の方々が活動でしているところも見ました。最高齢88歳のかたが木の枝に絡まったツルを取り除いていたり、80歳代の方々が散策路の杭打ちをしていて、なかなかすごいなと思いました。年齢的に80歳代とは思えないような感じでした。

高田部会長： そうですよ。

高橋委員： なおかつ、農園まで運営していて、それがまた会員を増やすきっかけにもなっていました。愛護会の皆さんがそれぞれに合った形で市民の森の作業や農作業をしているということが印象に残っております。

奥井委員： 私は、その前日の金曜日に高橋委員と高田委員と村松委員と行かせていただいたんですけども。その農園の脇のテーブルでインタビューをさせていただきました。

印象としては、皆さん、ここにも書いてあるように、70歳以上の方が9割を占めているということで高齢なんですけども、本当にはつらつとしていました。楽しく続けていけるポイントというか、秘訣はやっぱり無理をしないで楽しくやっているってことだそうで、午前中でサクッと終わるんだというのをすごく強調されていたんですね。

事務局： そうですね。強調しておっしゃってましたね。

奥井委員： そうです。だから、本当に無理をしないで自分のやりたいようにやるっていう、やりたい人が気軽にやるのが続けていける秘訣なのかなというのを感じました。

あと、高橋委員もおっしゃったように、農園を始めたら、野菜とかそういうのを作るのは女性のほうが得意みたいで、女性の会員が増えましたっていうことを言っていたので、記事に取り上げていただけて良かったなと思います。

世代交代のことについても、若い人が入らないみたいなことはおっしゃってはいたんですけども。でも、こうやって現役をリタイアされた方が次に楽しむ場として、あと、緑に触れるとか、土に触れるって健康にもいいので、自分たちの健康維持、増進といますか、そのためにも、その年齢から始めることも全然いいのかなというふうなことで、なので、セカンドライフを愛護会で、というふうにタイトルを付けて、その上で書かせていただいております。

高田部会長： ありがとうございます。

高橋委員： もう一つ付け加えると、次世代へつなぐというところでは、いろんなイベントで親子や若い世代がたくさん来られるようなので、20年、30年後にはイベントに参加した人たちが愛護会の中で活動するような流れもうまくできるのかなと思いました。皆さん和気あいあいと楽しんで活動し元気であることで、世代もつながっていく可能性があるという印象を受けました。

高田部会長： なるほど。いらっしゃらなかった方もちょっと雰囲気は分かっていただけなのかなと思いましたけれども。

それで、この内容とレイアウトとか、そういうことも含めていかがでしょう。この活字の大きさはこの大きさなんですか。

事務局： パソコン内の資料のうち、「参考」という墨付きのデータが目安の大きさになります。

村松委員： 去年のは随分小さいですね。

高田部会長： そうですね。

事務局： 去年は書きたいことが多く、文字数が多すぎたので、確かに文字が小さかったです。

高田部会長： そうなんですね。でも意外と分かりやすく、余白が反対に利いていて、皆さんに理解していただくにはとても良かったんですね。

事務局： 今回は、文字数を減らしたので、余白もできますし、文字が少し大きくなるようなイメージです。ちょっと小さ過ぎて見にくい方もいらっしやっただかなと思っていたので。

高田部会長： 確かにちょっと小さかったかもしれないですね。

国吉委員： レイアウトのことだけなんですけれども。表紙はすごく分かりやすいし、とてもいい写真だなと思いました。すごく印象が良かったです。

2枚目の所で「緑区にある鴨居市民の森」っていうのを写真の上に持っていくと、右と同じような感じになるのではないのでしょうか。

高橋委員： バランスが良くなりますね。

国吉委員： あと、中面右下の「市民の森の何」っていうのと、「市民の森愛護会って何」というのと、「みどり税」っていうのが文章をちょっと引っ付け過ぎてしまって、逆に、お互いが見づらかったり、大事なところが読めなかったりするのかなと思うので、区切りを入れるなど工夫できたらいいかと。

事務局： この三つのブロックが読みやすいようなデザインにということですね。業者さんに出すときに提案して出せるようにしたいと思います。

高田部会長： あとはどうですか。

ここの「不法投棄のごみの山から」というところは書いてくださったんですか。

奥井委員： そちら辺は私です。愛護会から資料をお借りして正確な情報を拾ったところがあります。

高田部会長： 前にうちを取材して「みどりアップQ」を作っていたいたときなんですけども。クエスチョンマークでずっと語っているんですね。

活動をご紹介するときに本当に何にも知らない方にお見せしたときにも分かっていただけるものがあるのかなと思うんです。問いを投げかけて、そして、それについて、いや、実はこういうことなんですというのが説明になっているのでわかりやすい。

例えば、1番の「不法投棄のごみの山から市民の森に」っていうのをどうして始めたんでしょうかとか、すぐに誰もがこの活動ってどんなことから始まったのってわかるようにしてはどうでしょう。私たちも、取材のときに、あそこが始まったのはどうして始まったのかなって思って、質問したと思うんですけど。

奥井委員： インタビュー形式みたいな感じで？

高田部会長： ええ。そして、説明は今のままで。そうすると、この緑色の字のどこだけをそんなふうにしたら、「始まりは何」とか、そんなような、どうして始まったのとか、そんなような感じで書くと、ここにはそういうことが書いてあるんだ、ちょっと読んでみようみたいに思う。

奥井委員： はい。

高橋委員： その「不法投棄のごみの山から市民が集う憩いの森」というサブタイトルですが、「市民が集う憩いの森」はよく聞く一般的な言葉なので、例えば、「不法投棄のごみの森から宝の森に？」とか「ごみの山から宝の森へ」とか、ちょっと短くして、ごみの森が宝の森になって親子みんなで楽しめる森になったことを表すような言葉にするとよいのではないかと思います。

奥井委員： もっと目を引くようなタイトルについていう感じですね。

高橋委員： 「ごみの山から宝の森に」とか、「ごみの山が宝の森に」とか、「ごみの森から宝の森に」とかですね。  
あと、文字のフォントは、業者さんに指定されるのですか。

事務局： いったんデザイン業者さんにお任せして、出来上がったものを皆さんにもそれを送るので、ちょっとこのフォントは見にくいですとか言っていたら、リクエストできます。

高橋委員： 最近、学校教育の中でも先生たちは、ユニバーサルデザインの文字フォントを使うようになったようですね。従来の文字での説明文や問題文よりユニバーサルデザイン文字のほうが子供たちの理解力が上がると最近言われていて、シニア世代にとっても文字の読みやすさからユニバーサルデザイン文字のほうが目から入りやすいと思った次第です。

高田部会長： いいかもしれないですね。あとはいかがですか、皆さん。

奥井委員： 左側の一番最初の、高田委員と高橋委員からご提案があった「不法投棄」のところですが「不法投棄」はなんか暗いイメージがあるからやっぱりカットしましょう。「ごみの山から宝の森へ」でもいいかもしれない。

高田部会長： あと、現実的な問題として私もいろんな所で、話を伺うんですけど、こういう問題抱えている所って結構多くて、ごみになっていてそのまま、雑木林になって、要するに、手つかずの所になってしまった。このことから、インスパイアされることがすごく重要なポイントだと思うのでいいですね。もう諦めていた所が森として再生するかもしれないという。

高橋委員： そう。そして、農園があるのもいいですね。市民の森は農地があっても大丈夫（横浜市市民の森設置事業実施要綱第3条の2項）なんですよ。今回の鴨居原は市民の森の外の農園でしたが、市民の森の契約条件に合えば市民の森として農地も含め一緒に愛護活動しても構わないようなので参考になると思いました。

高田部会長： そうですね。そうすると、やっぱり幅広い方がいらしてくださる森になるのかもしれないし、また、反対にこれからやろうとする方たちとか、今やって、なかなか担い手が続かないとかっていう所にもちょっといいヒントになりましたね。  
あとはいかがですか。

村松委員： 写真についてですが、これを読むと、森って力仕事っていうことがありますけど、実際にどういう作業をしているのかっていうのが分かるというなと思いました。森に関心があってこういう森活動してみたいなと思っても、じゃ、具体的に、実際にどうい

う仕事しているのかなって。

高橋委員： ここの写真だと2か所しか出てこないですかね。下草を刈っているところと、木を健全にさせるため、木に絡まったツルを切っているところですね。

高田部会長： 印象的にも上の写真も下の写真も同じような作業に感じられますよね。

村松委員： そうですね、草刈りで。もうちょっと木をチェーンソーで何とかするとか、なんかベンチを作ったりする。なんかそういうのがありますか。

事務局： そこまでの力作業はなかなかないですよ。先ほど、高橋さんもおっしゃってくださったけど。

高橋委員： そういえば、散策路に新しい杭を打ちロープを張る作業をされていたんですが。

事務局： 道を造って杭を打つような作業をされていたので、それは写真にも撮っているので、二つの写真のうち一つを、その杭を打ち込んでいるような写真に替えるのはどうでしょうか。

高田部会長： きれいに整備されていましたもんね。

村松委員： ふれあい広場の写真が3回も使われているのですよね。

事務局： 8月3日にそうめん流しのイベントがあったみたいで、そのときに切った竹でやぐらを作ったりなどいい写真がうちの局にあります。

高橋委員： そうめんを流すために、竹で台を作っていますね。

事務局： そうなんです。これがすてきなんですよね。できることをできるだけやると言いつつも、自分たちで切った竹で手作りでやぐらまでつくってしまう。楽しみながらやっているんだなっていうのがすごく感じられて、こういうのがあるのといいなと思いました。

高田部会長： 取材のときにお話伺った小屋も印象的でしたよね。

奥井委員： あれ、良かったですよ。楽しさが詰まっています。

奥井委員： 一つぐらいイベントの写真もあるといいかもしれません。

事務局： では、写真をちょっと幾つか見繕ってみますね。  
裏面はよろしいですか。横浜市域全体の地図に39か所をポイントしていく予定です。数が多くて、字はこの書いてあるこれぐらいの小さい字になってしまうかもしれません。

高田部会長： 2次元コードで全体のが見ようと思えば見れるのですか。

事務局： 2次元コードでつなぐのは各市民の森のマップです。以前お見せした細長い冊子みたいになっているものです。

高田部会長：そこで詳しく見られるんですよ。

事務局： 一覧の所に飛ぶような2次元コードになっています。実際に、この区のここなら行けそうだってなったら、2次元コードで見てくださいと、こちらが見られる。

高田部会長：あと、この「私たちのMUスタイル」っていう所は変えるんですよ。

事務局： そうですね。ACTIONに合わせて文章も変えます。

高田部会長：自分たちもアクションを起こしてくださいよっていうか、お誘いするような内容も入れたいですね。  
一緒にアクションを起こしましょうと。

事務局： それを、使わせていただきます。

高田部会長：感想なんですけど、市民の森に行かせていただいて、市民の森などの、緑の10大拠点があり、かつ、民間の力で守ってくださるから、私たちも気温の問題とか、水の問題とか、そういうのをある程度解決してくださってる方なんだと思うと、なんか守り人みたいな、ここでは愛護会の方たちがね。本当に感謝だなという印象を受けたので、そんなことがこの紙面で皆さんに伝わったらいいかなっていうふうに思いました。

望月委員： 完璧にそうですよ。基本的には皆さん、手弁当で、こういう緑を守っていつている。そこでイベントをやって、それを、学校でも活用して、そこで楽しむことができるという。  
だから、そういう意味でいくと、本当に今、部会長が言ったとおりですごいことなんですよ。  
こういう活動がきちんとできていくっていうところに、横浜の市民の森と市民力というのがものすごくあるっていうことなんです。他の市だと、やっぱりこんなんはできないですよ。愛護会もすごくレベルの高い愛護会から、もう本当にアマチュア並みの愛護会もありますから、でも、それはもう皆さんの手弁当でやっている。そこがまたすごいところだと。

高田部会長： いろんな人の連携をつくっていらして、もうみんなですべて守っていかうっていう、力強さを感じましたよね。

高橋委員： 鴨居原市民の森ではライオンズクラブが寄贈したベンチや横浜市緑の協会（よこはま緑の街づくり基金）が寄贈したハンカチの木が印象的でした。一生懸命に活動していると、いろいろとサポートしてくれる方々が現れてくる。そういう感じでしたね。

高田部会長： 上手に発信していらっしゃるんですね、やっぱり。

高橋委員： もし、紙面の下にスペースがあれば、『『鴨居市民の森愛護会』で検索』を入れてもいいのかなと思ったんですが。

事務局： そうですね。ここは立派なホームページがありましたもんね。検索窓を入れましょうか。

奥井委員： ホームページも常にアップされていて、専門の方がやっているのかなって思うぐらい充実していましたね。



あと、愛護会の方が自治会のメンバーさんとかぶっていたり、地域の各団体とすごく連携を取っているなどというのをとても感じたので、それで、イベントとかでもすごく集客がいいんじゃないかなとか、発信力ももちろんあって、という印象はすごく受けました。鴨居原市民の森の愛護会の方たちは、もうそこだけじゃなくて、いろいろな方と連携を取られているなっていう印象を受けましたね。

村松委員： それもすごく大事だと思いますね。地域で30ぐらいでしたっけ、団体がみんな協力し合って。

高田部会長： 高齢者ですと言いながら、すごく楽しんでいらっしゃるし、その世代になったら、そこで力を発揮できるんだっていうふうですね。反対に、若い方もその年代になったらこの楽しみがあるんだ、みたいな、行けばできる、みたいなね。

高橋委員： このYokohamaみどりアップActionを読んだ読者が月1回でも愛護会の活動に参加するようになってくれるといいですね。

高田部会長： 表題も決まり、記事のこの内容もこのぐらいでよろしいですか。それでは、議題の1を終わりますして、今度、議題の2に入ります。市民推進会議の広報誌の第37号計画案について、事務局のほうからご説明をお願いいたします。

(事務局説明)

高田部会長： まず、この内容について何かご意見、皆さんにございますか。今度はどちらかというと農のトピックということですよ、あぐりツアー。

村松委員： この左側の「みどりアップ計画との」という所が、今回のイベントとは関係がないということですか。

事務局： みどりアップ計画では、「あぐりツアー」として市民の方が農に触れ合えるような場面をご提供させていただいて、そこに市民の方に参加していただいています。紙面のイメージとしては、横浜の農を楽しんで、みどりアップ計画を知っていただくきっかけになったり、小さいお子さんとかが農に触れ合っているなどというのをすごく感じられたらいいかなと思っています。

高橋委員： 「あぐりツアー」は、みどりアップ計画の柱2の事業ですか。

事務局： みどりアップ計画で言うと計画書の28ページ、「農に親しむ取り組みの推進」という柱の中に位置付けられる、28ページ、「市民が農に楽しみ、支援する取り組みの推進」というのがあって、このかっこ2の「市民が農を支援する取り組みの推進」の下の「横浜ふるさと村恵みの里等における農を楽しむ取り組みの推進」の中に、真ん中ら辺なんですけど、3行目、「横浜の農を知ってもらうあぐりツーリズムの推進」というところのあぐりツーリズムの推進のイベントがこれにつながるということです。

高橋委員： だから、そこがみどり税の対象になっているってということ？

事務局： みどり税の対象ではないです。対象ではないんですけど、みどりアップ計画の中で位置付けている事業にはなっているんですよ。

高田部会長：ひも付いているけど、助成はされていない。

事務局： みどりアップ計画自体が、みどり税を使っていない事業もあるんですね。特に農は多くて、地産地消の関係だとかはみどり税は入っていないですけども、みどりアップ計画の取り組みの中ではやっているのをご紹介いただくにふさわしい事業ではあるかと思えます。

高田部会長：そうすると、今度はこの原稿を書いていただく方を決めるということですけども。

事務局： まず、当日10月5日なので、この日に行けないことにはあっていうところがあると思うんですね。1時に相鉄のいずみ野駅に集合して、そこから車で巡って、夕方4時15分にまたいずみ野駅で解散になります。

事務局： 正式な出欠はメールで伺うので、それにご返事をいただきますが、村松さんと国吉さん。村松さんがメインということでもいいでしょうか。

村松委員：はい。

国吉委員： はい。

事務局： あと、裏面では今のところ、調査部会に行ったレポートを書いていただこうかなと思っているんですけど。調査部会が10月18日の午前中。こちらを出席できる方の中から決めたいと思うのですが。

高橋委員： この調査部会の原稿は私が書いてもいいですよ。

事務局： 写真メインで、コメントを入れるような感じなので、負担にはならないかなと思っています。

事務局： 正式に出欠確認後に再調整で、高橋さんが一応、立候補していただいたのでメインということで。

高田部会長：では、次の議題の3の見える化企画の方向性の検討について、また事務局のほうでご説明をお願いいたします。

(事務局説明)

高田部会長：だいぶ今までの意見を入れていただいて、形になってきたのも出てきたのかなと。

それこそ見える化になってきたように思っていますので、今後、これからさらにどういうことを積んでいったらいいかを皆さんでまた提案していくというのが、今回のお題じゃないかなと思います。

また、いろんなところでどんなことをしたらいいかっていうことをちょっとお考えいただきながら、また進めるということなので今日のところはよろしいでしょうか。

事務局： 本日もいろいろ貴重なご意見ありがとうございました。

資 料 ・ 特記事項	次第 配布資料1-1 市民推進会議広報誌タイトル候補一覧 配布資料1-2 市民推進会議広報誌第36号原稿案 配布資料2-1 市民推進会議広報誌第37号企画案 配布資料2-2 市民推進会議広報誌第37号レイアウト案 配布資料3 見える化企画案
------------------	---